



政府統計

報道関係者 各位

平成 28 年 10 月 26 日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室

縦断調査管理官 後藤 敬一郎

室長補佐 近藤 敬太 (内線 7473)

室長補佐 巽 恵美子 (内線 7494)

(担当) 出生児縦断統計企画係

平成 13 年 出生児 (内線 7474)

平成 22 年 出生児 (内線 7566)

(代表電話) 03(5253) 1111

(直通電話) 03(3595) 2413

第14回21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）及び 第5回21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）の結果

厚生労働省では、このほど、同じ集団を対象に毎年実施している「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」の第14回（平成27年）及び「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」の第5回（平成26年）の結果を取りまとめましたので、公表します。

21世紀出生児縦断調査は、平成13年生まれ及び平成22年生まれの調査対象児について、生活実態や経年変化の状況を継続的に観察するとともに、平成13年出生児と平成22年出生児の比較対照等を行うことにより、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。

調査時点での子どもの年齢は、平成13年出生児の第14回調査が14歳（中学2年生）、平成22年出生児の第5回調査が4歳6か月です。

【調査結果のポイント】

<第14回調査（平成13年出生児）>

1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第1回調査（出産半年後）の25.0%から年々増加し、第14回調査（中学2年生）では79.3% (5頁 図1)

2 子ども自身が考える将来について

(1) 進路

男児、女児とも「大学卒業後に働くことを考えている」の割合が最も高い。 (10頁 図5)

大学卒業後に働くことを考えている (男児) 41.9% (女児) 40.9%

具体的にはまだ考えていない (男児) 31.1% (女児) 25.3%

(2) 結婚

男児は約半数が結婚を具体的にはまだ考えていないが、女児は約6割が20代で結婚したいと考えている。 (10頁 図6)

20～24歳でしたいと考えている (男児) 14.7% (女児) 29.1%

25～29歳でしたいと考えている (男児) 22.9% (女児) 28.1%

具体的にはまだ考えていない (男児) 45.8% (女児) 27.4%

<第5回調査（平成22年出生児）>

1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第5回調査（4歳6か月）で58.2%となり、平成13年調査（第5回）の46.8%に比べて11.4ポイント高い。 (11頁 図1)

2 父母の喫煙状況

父母がたばこを「吸っている」割合は、平成13年調査（第5回）と比べて減少。 (13頁 図3)

(母) 平成13年調査 17.5% → 平成22年調査 8.1%

(父) 平成13年調査 53.5% → 平成22年調査 38.0%

調査結果の詳細は、別添概況をご覧ください。